

第3章 基本方針

第1章で示した取組の成果と課題、情勢の変化等を踏まえ、第2章での基本理念を実現していくため、次の基本方針のもと、子どもの読書活動の推進に取り組みます。

1 子どもの自主的な読書活動の推進

子どもたちは、読書を通じて読解力や想像力、思考力、表現力等の生きる基礎力を養うとともに、多くの知識を得たり、多様な文化を理解したりすることができます。また、読書は、子どもたちが自ら考え、自ら行動し、主体的に社会の形成に参画していくために必要な知識や教養を身に付ける重要な契機となります。特に、社会が急激に変化し、複雑化していく中で、個々人が読書活動等を通じて、生涯にわたって絶えず自発的に学ぼうとする習慣を身に付けていくことは大変重要です。

このような観点から、子どもが自ら読書に親しみ、進んで読書習慣を身に付けていけるよう、子どもの興味・関心を尊重しながら自主的な読書活動を推進していきます。

2 家庭、学校、地域を通じた社会全体での取組の推進

子どもの自主的な読書活動を推進するためには、市民協働の理念に基づいて、家庭、学校、地域のそれぞれが担うべき役割を果たすとともに、相互に緊密な連携・協力により必要な体制の整備に努めます。

3 子どもが読書に親しむ機会の提供と諸条件の整備・充実

乳幼児期に子どもが本と出会うことは、その後の人生において読書の習慣を形成するためにも大切なものとなります。家庭はもちろん、保育所・幼稚園・こども園、学校等でそれぞれが担うべき役割を果たす必要があります。第2次那覇市計画期間では、幼稚園や保育所で読み聞かせ等の職員研修を実施している園の割合は、目標としていためざそう値に達しました。

第3次那覇市計画期間においても、職員研修の質を高める等、子どもの読書活動の大切さを十分理解した上で、乳幼児期からの発達段階に応じて読書に親しめる環境づくりと諸施策の推進に努めます（「第3次那覇市計画の体系図」P10参照）。

4 子どもの読書活動に関する理解と関心の普及

子どもが本と出合うために、子どもと本をつなぐ大人の果たす役割は重要です。乳幼児期は父母、祖父母や保育所・幼稚園・こども園等の先生が、家庭や園の生活の中で、絵本等の読み聞かせを通して子どもにぬくもりややさしい声を贈ってあげることができます。学童期には学校において、担任や図書館の先生から読書の大切さやおすすめの本を紹介してもらうなどして、様々な本と出合う機会を得、読書の世界が広がります。また、教科等の中で本や新聞等の資料の活用を指導し、探求的な学習へつなげていく必要があります。

子どもが自主的な読書態度や読書習慣を身に付けていく上で、特に、保護者、教員、保育士等子どもに身近な大人が読書活動に理解と関心を持つことが重要になります。

子どもを取り巻く大人を含めた社会全体で読書活動を推進する気運を一層高めるために、子どもの読書活動の意義や重要性について、市民へ理解を広め、関心を高めるよう啓発・広報に努めます。

5 人材の育成

子どもの読書に関わる職員は、子どもの読書活動の大切さに対する意識を持ち、子どもと本をつなぐ役割を担い、またボランティア等との連携など、子どもの読書活動を推進していく上で、重要な役割を担っています。

また、市立図書館や学校図書館の司書は、児童図書をはじめとする図書資料の選択・収集・提供、利用者に対する読書相談など、子どもが読書と深く結びつくために、必要な専門的知識・技術を習得する必要があります。

司書をはじめとする、子どもの読書に関わる職員へ、子どもの読書活動についてのスキルを磨くための研修の充実を図っていきます。